

富士宮東高校 南米産業開発青年隊記念碑のその後

産業開発青年隊同窓会 会長 鈴木浩明

以前、産業開発青年隊の記念碑が、富士宮東高校に存在することをお伝えしました。その後、どのようになっているかを、確認してきました。

富士宮東高校は、構内の改修工事中でしたが、記念碑は移動されることなく、同所にそのまま設置してありました。変わったことは、校訓の碑が少し離れたところにあったのですが、青年隊の記念碑に並ぶように配置換えをしてありました。

「南米産業開発青年隊の魂、凝固して学舎の礎を永遠に築く」建設省建設大学校中央訓練所長 長澤亮太と書かれたこの記念碑ですが、産業開発青年隊南米移住班 9期 荒木昭次郎先輩が南青協便り台 216号（2022年8月8日発行）に手記を記載されていますので、ご紹介したいと思います。

南青協便り 215号によれば、静岡県立富士宮東校敷地の聖地に参加した青年隊員に感謝の記念碑がつくられていたそうですが、私も当時にその校庭敷地内の整地工事に関わった一人でしたが、その後に記念碑が作られたことは知りませんでした。それに校舎の改修で記念碑が廃棄の憂き目にあいましたが、OB 会との話し合いで継続が続けられるとのことになり大変うれしく思っています。そんなわけで当時のことを少し詳しく書いてみます。

1962年9期生だった当時の我々産業開発青年隊関東隊は、海外班と国内班が一緒に、東京墨田区にあった建設省関東中央整備工場に設けられた臨時訓練所に仮住まいをして、夜間に抗議を受け、日中は工場に集約されていた建設用の各建設重機の修理作業の手伝いとか簡単な溶接などをしていました。

そのうち実際の工事現場行きの話があって、栃木県に建設中だった川俣ダムの実習が決まり、グループで主に測量とコンクリートの生産から打設工事まで経験してきました。その後研修所の教官の話で、富士宮の東校の整地工事の要請があり、皆で行くことになり、富士山の麓の東校（当時は女学校として開校していました）に皆で行き、校舎前から空地の測量仕事と見覚えたブルドーザーの操作を駆使して仕事を始めました。

実際に作業を始めましたが高地からの掘削と低地への運土の仕方などいろいろ問題があり、教官に話して、重機の効率を上げる作業方式を実際に学ぶ必要があると話し、その専門の教官を呼んでくださいと頼みました。

その後すぐ工事仕様専門の吉留教官が来てくれ直接作業のやり方を指導してくれました。その後私たちも安心して作業に熱中でき、作業の効率も上がり期間内に無事に整地作業も終えて完了しました。この女子高の仕事では初めてのブルドーザー作業でしたが、特に土曜日などには校庭の周りにおおくの女学生たちが見学に来られ、我々もこれ幸いと張り切って仕事の成果を出そうと頑張りました。一緒に写真を撮ったりしたこともあって楽しかった実習の思い出となっています。 以上

60年前の、思い出がはっきりと浮かび上がってわたくしたちに当時の様子を伝えていただきました。

今本当に、産業開発青年隊同窓会のホームページを開設できてよかったと感じています。これからもいろいろな情報が入り、また情報を発信できるように事務局ともども、努力をしていきたいと思います。また来年の産業開発青年隊創設70周年において、埋もれてきた情報を、提供できればと考えています。ありがとうございます。



